



代表取締役社長

須藤 亮



SUDO AKIRA

従業員の皆様、あけましておめでとうございます。2026年の年頭にあたり、2025年の振り返りと、中期経営計画2年目、そして未来に向けた展望についてお話いたします。

最大の出来事となった統合、社員の不安払拭への対話

2025年最大の出来事は、ファシリティマネジメントとの統合です。長年働いた会社の屋号がなくなり、規模の大きい会社への転籍となり、社員の皆さんは大きな不安を抱えていたと想像します。私が3月に社長を兼務した当初、皆さんの間に「会社が変わるかもしれない」という期待が生まれているのを感じていました。しかし、統合の事実はまだ開示できず、1か月後に「実は統合します」と報告するほかありませんでした。一度高まった期待を裏切るような形での報告となり、統合後、離脱された方が出たことや、約束した組織体制を変更せざるを得なかったことは私にとっても非常に心苦しいスタートとなりました。

そして、何と言っても、設立50周年を迎え、オ

フィス改装が完了し、商環境本部の組織を刷新し、念願だった国家PJである大阪関西万博の施工に携わることができたことは、今後の日商インターライフにとって、ターニングポイントであり、2年前倒しでの売上100億達成は、振り返ったときに非常に大きな出来事だったと思うことでしょう。

エンゲージメント向上と協業、変化が力に変わる確信

不安から始まった統合ですが、確かな手応えも感じています。9月に行ったエンゲージメント調査では、全25項目ほどの調査項目のうち24項目で、FM事業本部の皆さんの回答数値が大幅に改善しました。

特に「会社の将来性」への不安が改善されたのは、毎月の朝礼などで会社全体の状況や今後の方針を伝え続けてきた成果かもしれません。もちろん、わずか3か月の結果を鵜呑みにはできませんが、不安は払拭されつつあると感じます。最大の狙いであった竣工清掃等の「協業」がスタートできたことも大きな前進です。



▲友人の誕生日会にて「ココロオドル」を熱唱

「狙って達成する」組織へ。情報集約と中期経営計画

2025年から、第5次中期経営計画がスタートしています。これまでは、目標を立てるものの、必ずしも「狙って」業績を作れたわけではなく、「流れで結果が作れてきた」という面があったと思っています。

その大きな原因は、会社全体で情報を共有できなかったこと。そのため急な話が出てきたときに慌てて対応することも多く、会社としての「準備」ができていませんでした。

そこで2025年からは情報の「集約」を徹底しています。「結果としては良かったね」という偶然ではなく、「こうしたから結果が出た」と狙って言える状態を、第5次中期経営計画期間で作っていきたくと思っています。

10年後を見据えた人材育成。人事体制の本格改革を宣言

もう1つの大きなテーマが「人財」です。今の軸は40代後半から50代のメンバーですが、10年後、彼らが定年を迎えたとき、今の20代・30代半ばの皆さんが軸になっていく必要があります。育成は「重要だが緊急でない」業務とされ、日々の案件に追われてなかなか手が付けられてこなかった。この課題は、エンゲージメント調査の結果にも如実に表れています。

2026年、いよいよ人事を本格的に変革します。300人を超える社員・アルバイトの採用・育成・定着という人事関連の業務を、現在、総務と兼務しながらごく少人数で担っている体制は、やはり困難なもの。2026年は担当を明確に分け、10年後を見据えた体制を構築します。

成長の原動力は「探求心」。本気で挑むサイクルを回せ

皆様には「知りたい」という探求心を持ってほしいと願っています。人や物事に興味関心を持つこと。我々の仕事は、お客様の悩みを解決し、ワクワク感を抱いていただくこと。それには、相手のことを深く知り、どうしたら喜んでもらえるか、どうしたら不安や不満を解消できるか、どうしたら期待を上回る提案ができるか、その根本にある「知りたい」という欲求こそ、成長の最大の原動力です。仕事でもプライベートでも構いません。知らないことに出会ったとき、知りたいと思う欲求が強い人ほど伸びていきます。そして、本気で取り組んでいけば、勝っても負けても成長につながる。本気でなければ、悔しさも生まれず、サイクルは回りません。私はこれを「成長サイクル」と呼んでいます。

失敗を恐れる必要はありません。なんとなく器用にこなしてしまう人よりも、うまくいかない経験を多くし、壁にぶつかってきた人の方が、後々やはり強いと私は思っています。挑戦し、失敗したことを経験に繋げ、それを血肉にしていって「本気」の挑戦を期待しています。

2026年が、皆さん一人ひとりにとって、探求心を持って本気で挑戦する「成長サイクル」を回す1年となることを心から願っています。今年も一緒に挑み続けていきましょう！



8人の愛好会

▲2025年12月5日TBS「ベース・デイ」にて高校ラグビー部時代の写真が放送されました

現場から学ぶ

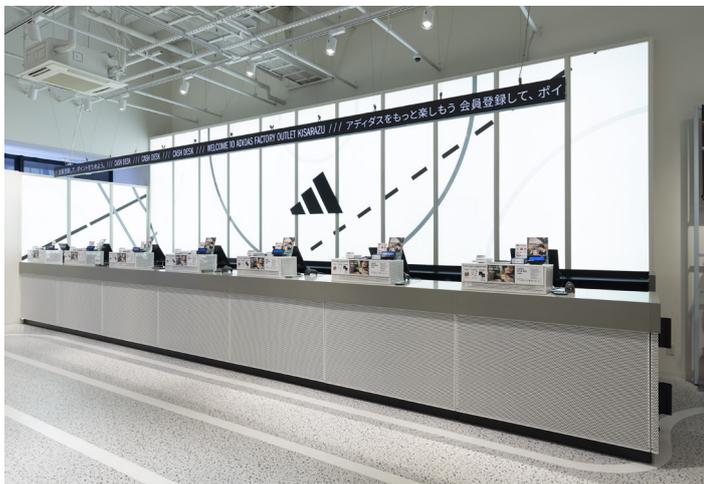
アディダス ファクトリー 三井アウトレット木更津

2025年夏、千葉県木更津市の広大なアウトレットモールに竣工した「アディダス ファクトリー 三井アウトレット木更津」。巨大なウィンドウ演出と特注仕子の緻密な設置作業が求められた本プロジェクトで、現場管理を担当した牧野さんに、施工のポイントや安全・品質を守り抜く現場管理へのこだわりを聞きました。



商環境本部 CS一部 二課
まきの たかし
牧野 孝俊さん

この現場のこだわりポイント 光壁と特注パネルの精度



最も神経を注いだのは、ウィンドウ内の「光壁（ひかりかべ）」と「特注パンチングパネル」の施工です。光壁は壁全体が発光する意匠で、今回は店舗デザインに合わせた完全特注品でした。巨大なウィンドウに対応するため、部材は分割して搬入し、現場で組み上げます。

継ぎ目にわずかでもズレが生じると、光が漏れたり影ができたりして美観を損ねてしまいます。分割されたパーツを、いかに一枚の壁として見せるかという課題に対し、現場での位置合わせとmm単位の微調整を徹底しました。



現場の概要

施工事例: アディダス ファクトリー アウトレット木更津
所在地: 千葉県木更津市
施工期間: 2025年7月29日～9月22日
施工範囲: 床、壁、天井と、中国から輸入した仕子の設置



現場作業で苦労したこと 信頼関係が生んだ円滑な連携

この現場は非常にスムーズに完工まで進めることができました。

最大の要因は、難易度の高いパネル施工を、長年の付き合いがある協力業者に依頼できたことです。私の意図を深く理解してくれる職人さんたちとの連携があったからこそ、高い精度が求められる作業も円滑に進みました。事前の段取りと信頼関係に基づくコミュニケーションが、工期内の確実な品質確保につながりました。

この現場で心がけたこと 安全ミーティングと的確な伝達

最も重視しているのは「安全」と「品質管理」です。安全面では、毎日の「安全ミーティング」を徹底しました。今回は高所作業が多かったため、作業台の適正な使用や危険箇所の周知を重点的に実施。作業中も、危ないと感じる場面があれば即座に声をかけ、無事故での完工を目指しました。

品質管理では、引き渡し前の「仕上げの美しさ」を追求し、私自身が入念な最終チェックを行いました。また、現場でのコミュニケーションにおいて意識しているのは、必要な情報を的確に伝えることです。過度に距離を縮めるのではなく、淡々と、それでいて確実な指示を出し、理解してもらう。この適度な関係性が、結果として現場の規律を守り、高い品質を生み出すと考えています。

私の仕事術

後輩への的確な指導や、円滑な現場運営。
日々の業務には、経験に裏打ちされた無数のヒントが隠されています。
今回は織田さんと杉山さんに、
それぞれが実践する仕事の極意を伺いました。

新人教育の

仕事術

商環境本部 CS一部 三課
課長代理

おだ わたる
織田 亘さん



「聞く体制」を作るための伝え方

新人教育は子育てのようなもの

まず相手に「聞く体制」を作ってもらうことを重視します。興味がなければ話は頭に入りません。子どもに教えるように「なぜこれが必要か」を咀嚼して伝えます。本人の関心を引くことが成長の第一歩です。

新人教育にあたり意識していること

言葉は相手に届いて初めて意味を持つ

仕事の要は情報を正確に伝える「伝達力」です。言葉やメールなど手段は様々ですが、どうすれば相手に誤解なく伝わるかを常に重視しています。相手の立場によって伝え方を変える多角的な視点も大切です。

ミスを学びにつなげるために

誰もがミスをする。だから感情的にはならない

私も含め、人間は誰でもミスをします。だから一方的に責めるということはありません。まず「なぜミスが起きたか」、そして「そのミスが周りにどう影響するか」を具体的に説明し、次につながるように話します。

杉山さん流！前持った準備

仕事は「始まる前」が勝負。 先手の仕掛けでトラブルを防ぐ

ご依頼を受けたら、まず材料の「売り止め」をかけ、早い段階で資材を確保して後の手戻りを防ぎます。同時に職人さんの手配も進め、この2つを先行させることで円滑なスタートを切っています。

人員配置の極意

「持ち味」を活かして成果を変える

職人さんには得意不得意があるため、現場の特性を見極めた「適材適所」の配置が重要です。長年の付き合いで個性を把握し、現場に合わせて采配しています。まず中心となる信頼できる職人さんを決め、そこに応援に入ってもらうのが基本の形です。

現場を円滑に進める思考法

常に視線は「後ろ」。工程全体を見渡し冷静に判断

私たちの仕事は工事の終盤を担うため、遅れは後工程に直接影響します。問題発生時も常に「後工程」を意識し、スケジュールが厳しい現場を最優先します。そこに職人さん

段取りの

仕事術

專業本部 インテリア課
課長代理

すぎやま きよし
杉山 潔さん



いつも現場ごとに職人さんの予定を組んで管理している現場予定表の前で！

を集中させ、一つひとつ完了させる。パズルを組むように状況を再構築していきます。

飛躍を誓う！
午年社員

2026年の抱負

2026年の干支は午（うま）。
年男・年女を迎える6名の社員に、
2025年の振り返りと2026年の抱負を聞きました。
さらなる飛躍を誓う皆さんの
熱い決意をご覧ください。



専門本部 建材一課
おがわ だいすけ
課長 小川 大補さん

2025年の振り返り 新規・既存顧客へアプローチし次へつなげる

2025年は全体的に忙しい状況が続き、課長 案件が多い時期がいつまで続くかわからない
間で職人さんの共有を行い、多くの現場を完 ため、新しい顧客や既存顧客の他部署などに
工できるように取り組むことを意識しました。 アプローチし、2026年につなげたいと思います。

2026年の目標 アップグレード

この2年は人数があまり変わることなく業績 と強みのさらなる改善を意識していきたいと
を伸ばすことができた実績から、課題の改善 思います。

プライベートの2026年の目標 ゴルフ。打倒・吉田課長！

ハイブリッド課の吉田課長に最近スコアが勝て ないため、練習してリベンジします！

2025年の振り返り

会社合併により、ファシリティーマネジメント さらに8月より初めての新築工事に携わらせ
株式会社から株式会社日商インターライフと ていただき、学びと経験が多い1年間でした。

2026年の目標 変化を恐れず柔軟に

日商インターライフの一員として 2026年は 新しい環境でお世話になる人たちの顔と名
環境の変化を恐れずにチャンスと捉えて自 前をしっかり覚えたいと思います。

プライベートの2026年の目標 ダイエット！

10年で約17kg 増量しているため、健康のこ 暴飲暴食、その後すぐに寝てしまうことが多
とも考え絞っていきます。夜勤が多く帰宅後の いため今後は控えます。



FM事業本部 施設管理部 施工一課
ますだ みつあき
チーフ 増田 光暁さん

2025年の振り返り

6月に日商インターライフの仲間入りをさせて 受けた年となりました。この経験と初心を
いただきました。FM事業本部として業務内容 忘れず、自己の成長に励んでまいります。

2026年の目標 継続は力なり、さらなる継続は宝なり

「継続は力なり」、多くの方が聞いたことがあ 意となります。経験を身につけるだけでなく、
ると思います。「さらなる継続は宝なり」は 唯一無二なことを増やしてまいります。

プライベートの2026年の目標 新たなことを始める

年を重ねるにつれて、新たなことへ挑戦す しくなるようなことを見つける挑戦を行って
る機会が少なくなりつつあります。自己成長 まいます。



FM事業本部 施設管理部 施工一課
ねぎし とおる
チーフ 根岸 徹さん



専門本部 インテリア課
いしはら せいしろう
石原 誠士郎さん

2025年の振り返り

10月に入社したばかりのため、一つでも多くの仕事を覚えることを目標に努力しました。

2026年の目標 自分の選択肢を増やし、積極的に行動する

いろいろな人から頼られる存在になる。まだ 挨拶や礼儀を徹底し、果敢かつ積極的に
入社したばかりで私を知らない人が多いため、 動します。

プライベートの2026年の目標 親孝行する

今までお世話になった親に、できることをしたいと考えています。

2025年の振り返り

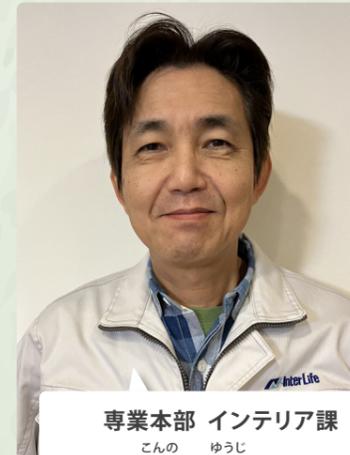
「基本に忠実」をテーマとした1年でした。 してきました。その結果、事故や大きなク
レームなどなく得意先からの信頼を維持で
きたと思います。

2026年の目標 初心に戻り、かゆいところに手が届く番頭に

得意先含め若い方に頼られる存在でありたい 心をかけていきたいと思ひます。また長年
の経験を活かし、顧客からの要望を形にす
り現場にも向き、一つひとつ丁寧な対応 り提案営業にも力を入れていきます。

プライベートの2026年の目標 感謝を忘れない

多くの人に支えられていることを忘れず、 特に家族の時間を大切にするために、計画
的な行動を心がけていきます。



専門本部 インテリア課
このん ゆうじ
金野 祐士さん

2025年の振り返り

2025年は、悩んだり決断したりを繰り返しな 周りの方々に支えていただきつつ、少しずつ
がら、自分とじっくり向き合った1年でした。 前へ進めた、とても大切な年でした。

2026年の目標 小さい一歩でも前進を積み重ねる

小さな前進を大切にしながら、日々の業務 えて周りとの協力しながら、着実に積み重ね
に丁寧に誠実さをもって向き合いたいと思 ている1年にしたいと思います。

プライベートの2026年の目標 毎日を心地よくキープする

心も体も健やかでいられるように、生活習 分のペースで心地よく過ごせる1年にす
慣を整えていきたいと思ひます。無理なく続 ことを目指します。



商環境本部 CSクリエイティブ部 設計課
なみき あゆ
並木 愛悠さん